

令和6年度
岩内あけぼの学園

事業報告書

社会福祉法人あけぼの福祉会

目 次

I. 利用者の状況	P3
1. 入退所状況	P3
①岩内あけぼの学園(施設入所支援)	P3
②岩内あけぼの学園(通所・生活介護)	P3
2. 居室と担当職員の状況	P4
II. 職員の状況	P5
III. 見学・実習生の受入状況	P5
IV. 第三者評価の実施状況	P6
V. 研修の状況	P6
1. 職場外研修の状況	P6～P8
2. 職場内研修の状況	P8
VI. 年間行事の実施状況	P9
VII. 生活支援の状況	P9
1. 社会生活活動の実施状況	P9
2. 避難訓練の実施状況	P10
3. 建物や設備の整備について	P10
4. 通院や入院への対応について	P10
5. 新型コロナウイルス感染症への対応について	P10
6. リハビリ支援について	P10
7. 行事の実施について	P11
8. BCP 計画(業務継続計画)について	P11
9. 学校との連携と将来的な人材確保について	P11
10. 広域避難訓練の実施について	P11
11. 地域移行に向けた取り組み、グループホームとの連携について	P11
12. 在宅(通所)利用者の支援について	P11
13. 記録管理システムについて	P11
14. 障がい者虐待防止について	P12
15. 利用料収入と支援スタッフの確保について	P12
VIII. 食事提供業務の状況	P12
IX. 健康管理の実施状況	P12
1. 日常生活における予防及び衛生	P13
2. 住環境の清潔と感染性疾患の予防	P13
3. 日常の健康管理	P13
4. 往診状況について	P13
5. 健康診断の実施と各種検診の受診	P13
6. 感染症罹患患者への対応について	P13
X. 苦情解決について	P14
XI. 日中活動支援の状況	P14
1. 活動グループの状況	P14
2. 各活動グループの活動状況	P15
① 生活介護Ⅰグループ	P15
② 生活介護Ⅱグループ	P15～16
③ 生活介護Ⅲグループ	P16

I. 利用者の状況について

1. 入退所状況

①. 岩内あけぼの学園、施設入所支援利用者動向

月	現員	施設入所支援状況		異動の状況
		入所	退所	
4	44	2		T・Yさん(入所)、K・Aさん(入所)
5	44		1	T・Tさん(退所)
6	43			
7	43			
8	43		1	Y・Tさん(退所)
9	42			
10	42		2	K・Kさん、K・Yさん(10/31付 GHサービス切り替えに伴う退所)
11	40			
12	40			
1	40			
2	40			
3	40			
合計	499	2	4	

②. 岩内あけぼの学園、(通所)生活介護利用者動向

月	現員	通所利用状況		異動の状況
		通所	退所	
4	15	7		S・Hさん、M・Mさん、I・Kさん、U・Kさん、 A・Tさん、N・Yさん、E・Hさん (4/1付 GHサービス切り替えに伴い通所開始)
5	15			
6	15			
7	15			
8	15			
9	15			
10	15			
11	15	2		K・Kさん、K・Yさん (11/1付 GHサービス切り替えに伴い通所開始)
12	17			
1	17			
2	17			
3	17			
合計	108			

2. 居室と担当職員の状況(令和7年3月31日現在)

① 施設入所支援サービス利用者

利用者名 (男性)	担当職員		利用者名 (女性)	担当職員	
	担当	副担当		担 当	副担当
T・Yさん	S・R	H・S	I・Hさん	N・K	U・Y
K・Yさん	S・R	T・Y	M・Tさん	N・K	E・T
M・Sさん	S・M	N・S	K・Aさん	N・K	S・A
K・Kさん	T・D	S・N	N・Hさん	S・A	U・Y
N・Rさん	M・T	N・S	I・Mさん	S・A	F・I
W・Tさん	M・T	T・Y	S・Mさん	S・A	N・K
T・Kさん	K・M	T・Y	O・Rさん	U・Y	S・A
T・Tさん	N・S	S・N	W・Aさん	U・Y	N・K
M・Mさん	N・S	Z・K	H・Eさん	U・Y	N・K
I・Gさん	Z・K	U・K	T・Kさん	S・H	T・M
Y・Tさん	Z・K	S・M	N・Kさん	M・A	N・K
K・Hさん	T・D	M・T	K・Sさん	K・S	N・K
T・Tさん	U・K	Z・K	I・Rさん	T・M	N・N
S・Kさん	T・Y	H・S	Y・Hさん	F・I	H・H
T・Kさん	T・Y	S・R	W・Hさん	S・A	K・M
A・Sさん	T・Y	K・M	K・Kさん	N・N	H・M
S・Kさん	T・Y	U・K	H・Hさん	K・M	S・A
O・Sさん	S・N	T・D	S・Yさん	H・M	K・M
I・Hさん	S・N	S・R	S・Sさん	K・M	F・I
Y・Mさん	K・M	T・D			
T・Mさん	T・Y	M・T			

②通所部 (在宅日中活動サービス利用)

利用者名	担当窓口	副担当	利用者名	担当窓口	副担当
M・Hさん	T・D	H・S	D・Hさん	N・N	K・S
K・Tさん	Z・K	S・R	N・Kさん	H・M	N・N
H・Yさん	U・K	T・D	A・Tさん	K・M	H・H
K・Kさん	T・Y	H・S	N・Yさん	T・M	S・A
S・Kさん	S・N	H・S	A・Tさん	S・A	K・S
M・Mさん	M・T	N・S	E・Hさん	N・K	K・S
U・Kさん	T・Y	T・Y	K・Yさん	E・T	S・A
I・Kさん	N・S	T・Y	K・Kさん	K・M	T・M
S・Hさん	S・R	T・Y			

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

<利用区分>

	施設入所支援	合 計	備 考
施設入所支援 利用者	男性 21名 女性 19名	40名(40名)	カッコ内は定員
在宅(通所)利用者	男性 9名 女性 8名	17名	

II. 職員の状況について

月	職員動向		異動の状況
	採用	退職	
4			
5			
6			
7			
8	2		S・M(採用)、S・H(採用)
9			
10		1	M・R(退職)
11			
12			
1			
2	2		O・S(採用)、U・A(採用)
3		1	N・S(退職)
合計	4	2	

III. 見学・実習生の受入状況

月	日	見学・実習生名
7	19	岩内高等学校2年生(インターンシップ) 1名
	7/21~8/2	経専北海道保育専門学校3年生 3名
9	9~13	北翔大学3年生 (教員免許取得の為の介護体験実習) 1名
11	20~21	星槎道都大学2年生 1名
2	19~20	星槎道都大学2年生 1名

IV. 第三者評価・オンブズマンの実施状況

月	日	
9	13	合同会社mocal(モカル)に依頼し、第三者評価を実施 調査員3名、モカルの代表者が学園に来園し、訪問調査を実施している。 事前に学園職員や利用者の方が回答した調査票を提出し、調査員が職員へヒアリングを行った。
	26	後志知的障がい福祉協会オンブズマンの来園 オンブズマン3名、後志知的障がい福祉協会権利擁護部会の職員7名が学園 に来園し、利用者の方や職員にヒアリングを行った。

V. 研修の状況

1. 職場外研修の実施状況

月	日	研修名	開催地	派遣職員
4	17	令和6年度後志知的障がい福祉協会総会	小樽市	管理者、M・T
	24	第1回支援研究委員会 WEB 会議(北海道)	オンライン	M・T
5	10	第2回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	小樽市	M・T
	15	西後志親の会 令和6年度定期総会	岩内町	管理者、I・M
	17	令和6年度岩内地方栄養士会定期総会	岩内町	K・Y
	24	発達障がい講座(支援者向け)	オンライン	S・N
	30	令和6年度階層別研修レベル1～入職5年未満～	札幌市	T・Y
	31	令和6年度岩内地区安全運転管理者協会定期総会	岩内町	M・T
6	4	第1回支援研究委員会三役会議	仁木町	M・T
	6	安全管理者講習	岩内町	M・T
	10	第3回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	岩内町	M・T
	10、17	発達障がい講座(支援者向け)	オンライン	S・N
	15	2024年度春期栄養士研修大会定時総会	札幌市	K・Y
	17	北海道知的障がい福祉協会令和6年度定時総会	札幌市	管理者
	17、18	令和6年度全道施設長セミナー	札幌市	管理者、M・A
	25	令和6年度岩宇地区自立支援協議会全大会	岩内町	管理者
28	第2回支援研究委員会(後志) 全体対面会議	仁木町	M・T	
7	4	第2回支援研究委員会(北海道)	札幌市	M・T
	11	第4回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	仁木町	M・T
	11、12	令和6年度全国知的障害関係施設長等会議	東京都	管理者、I・M
	16	施設見学①グループ(障がい者支援施設 松泉学院)	小樽市	H・Y、M・T U・Y、T・Y K・M、K・Y O・M
	29	令和6年度社会福祉法人経営実践研修	札幌市	H・Y
	30	令和6年度4法人自閉症勉強会実践報告会	仁木町	M・A、T・D S・A
8	2	第1回危機管理対策委員会	札幌市	管理者
	2、3	令和6年度自閉スペクトラム症支援者実習セミナー(基礎)	埼玉県	S・A

	5	施設見学②グループ(住宅型有料老人ホーム ソアレ)	札幌市	H・Y、F・M K・M、F・I S・R O・F、M・A
	6、7、8	強度行動障害支援者養成研修(基礎)	オンライン	K・M
	7	令和6年度危険物取扱者保安講習	岩内町	T・Y
	8	第2回支援研究委員会三役会議	仁木町	M・T
	9	令和6年度階層別研修レベル2 係長・主任・リーダー	札幌市	N・K、T・D
	21	施設見学③グループ(障がい者支援施設 光友園)	札幌市	M・K、S・R T・Y、H・M K・M、Y・S
	23	令和6年度4法人自閉症勉強会 基礎研修	オンライン	T・D、K・S S・M
	28	第5回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	小樽市	M・T
9	4	施設見学④グループ(札幌自閉症自立センターゆい)	札幌市	M・A、T・M Z・K、S・A M・R、O・K A・S
	17	令和6年度防災業務関係者研修 放射線防護施設担当者向け	共和町	T・D
	18	令和6年度防災業務関係者研修 社会福祉施設等関係者向け	倶知安町	H・S
	19、20	北海道サービス管理責任者実践研修	オンライン	H・Y
	20	第6回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	古平町	M・T
	20	令和6年度第1回岩内町福祉・介護・医療・教育関係機関 原子力防災連絡会	岩内町	管理者、I・M
	27	令和6年度北海道知的障がい関係支援員研修	札幌市	Z・K、U・Y
	27	施設見学⑤グループ(障がい者支援施設 札幌光の森学園)	札幌市	H・S、N・K N・S、T・Y E・T、H・J
10	2	令和6年度後志知的障がい福祉協会 職員研修会	小樽市	T・Y、K・M
	3、4	第60回全国知的障害福祉関係職員研究大会(福井大会)	福井県	T・D
	7	第3回支援研究委員会三役会議	仁木町	M・T
	11	令和6年度災害対策研修会	札幌市	管理者、M・A T・Y、K・Y Y・S
	15	第7回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	小樽市	M・T
	17	令和6年度指定障害福祉サービス事業者等に係る集団指導	オンライン	I・M、H・Y
	18	令和6年度岩内保健所感染症対策研修会	共和町	O・E
	23	施設長・管理者権利擁護特別研修	札幌市	管理者
	24	岩宇地区自立支援協議会令和6年度第1回担当者会議	岩内町	H・Y
	25	施設見学⑥グループ(障がい者支援施設 札幌すぎな園)	札幌市	I・M、T・D S・N、K・M K・S、H・H O・E
	30	令和6年度タイムリーニーズ勉強会	北広島市	M・T
11	1	令和6年度全道知的障がい関係職員研究大会	札幌市	H・S、M・A S・R、U・Y
	6	全国介護事業者連盟全国大会 in 東京 2024	東京都	管理者、H・S
	11	摂食嚥下ケア研修	オンライン	M・T
	13、14	強度行動障害支援者養成研修 基礎研修	オンライン	S・M
	15	年末調整講習会	札幌市	Y・S
	21	令和6年度権利擁護セミナー	札幌市	O・K、K・S

	21、22	令和6年度障がい虐待防止・権利擁護指導者養成講座	札幌市	M・T
	27	第8回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	小樽市	M・T
	27	岩宇まちづくり官民合同研修会	泊村	M・A
12	2	第4回支援研究委員会三役会議	仁木町	M・T
	6	障がいのある方の交際・結婚・子育てで支援を考えるセミナー	札幌市	H・Y、F・M
	9、10	第37回全日本自閉症支援者協会岩手大会	岩手県	N・K
	10	第9回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	オンライン	M・T
	13	令和6年度後志知的障がい福祉協会権利擁護研修	オンライン	S・M、S・H
	18	令和6年度日中活動支援部会職員研修会	札幌市	H・S
1	21	第10回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	オンライン	M・T
2	4	令和6年度北海道災害派遣福祉チーム(DWAT)チーム員研修	オンライン	M・K
	5	第5回支援研究委員会三役会議	仁木町	M・T
	12	第11回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	オンライン	M・T
	17、18	令和6年度 全道施設長研修会	札幌市	管理者
	20	令和6年度 第2回運営研究委員会	仁木町	管理者
	26	コミュニケーション研修～できる「ハウ・レン・ソウ」～	オンライン	T・Y
	28	令和6年度道央知的しょうがい者福祉協会虐待防止研修	北広島市	M・T
3	5、6	強度行動障害支援者養成研修	オンライン	S・H
	14	第3回支援研究委員会	小樽市	M・T
	15	ハラスメント研修	オンライン	H・S

2. 職場内研修の実施状況

月 日	テーマ	講師	参加人員
4/19	災害現場の支援状況について	社会福祉法人雪の聖母園 施設長	21名
4/19	業務継続計画(BCP)職員説明研修会(1回目)	管理職	51名
4/26	業務継続計画(BCP)職員説明研修会(2回目)	管理職	
4/26	海外実習性の受け入れについて	株式会社 3eee 庄司氏	11名
6/27	安全運転と交通事故防止について	岩内警察署	13名
8/1	高齢者研修(ノーリフトケアについて)	動画視聴	12名
10/30	感染対策講習、リハビリ講習・ADLの実践	O 看護師、O 作業療法士	12名
11/14	地域支援センター(ぽのっと) 事業所合同防犯訓練	岩内警察署	24名
12/3	意思決定支援について	社会福祉法人北海道社会福祉事業団 伊達市障がい者総合支援センターあい	32名
12/17	救命救急講習	岩内消防署	17名
2/27	業務継続計画(BCP)訓練(自然災害・感染症)	管理職	12名
3/27	虐待防止権利擁護伝達研修	M 主任	23名
			合計 228名

VI. 年間行事の実施状況

月	日	行事名	月	日	行事名
4	1	開園記念行事	10	30	ハロウィン・ランチ会
	18	日帰り旅行(余市町、小樽市)			
	24	日帰り旅行(余市町)			
	25	日帰り旅行(小樽市)			
5	6	映画観賞会	11	19	ランチ会 焼いも会
	16	日帰り旅行(余市町)			
	17	日帰り旅行(小樽市)			
	23	日帰り旅行(余市町) ランチ会			
6	6	バーベキュー 一泊旅行(札幌市)	12	19	クリスマス会
	13、14				
7	7~9	岩内祭り ランチ会	1	23	新年会・ランチ会
	25				
8	18	ものまねサマーライブ ランチ会 縁日祭	2	14	バレンタイン・ランチ会
	22				
	30				
9	5	バーベキュー	3	3	ひな祭り・ランチ会

VII. 生活支援の実施状況

1. 社会生活活動について

- ・月に1回の頻度で昼食を伴う買い物を実施した他、町内の新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスの感染状況に応じて、昼食を伴わない買い物も行った。また、職員代行での買い物やオンラインショッピングを利用している。
- ・1月から3月の冬期間については、月1回の頻度で町内のコンビニエンスストア(ローソン)の出張販売を依頼した。多目的ホールで買い物が出来るように商品を設置し、利用者の方が直接商品を選びながら、買い物を楽しんだ。
- ・利用者の方が活動に参加した際、記録管理システム(ケアカルテ)へ確実に記録する事で個別の参加状況を細かく把握できる様に取り組んだ。

2. 避難訓練の実施状況

月 日	訓練の種類	訓練の内容	利用者参加人数	年間実施回数
6/25	自主訓練	夜間避難訓練	41名	6回
8/21	消防訓練	避難訓練、通報訓練、消火訓練	42名	
10/18	自主訓練	地震を想定した訓練	42名	
10/31	原子力防災訓練	原子力災害を想定した 広域避難訓練	職員対象	
1/27	自主訓練	火災を想定した避難訓練	42名	
3/10	自主訓練	地震・土砂災害を想定した避難訓練	40名	

3. 建物や設備の整備について

社会福祉法人清水基金からの助成を受け、厨房で使用するスチームコンベクション(蒸気を組み合わせたオーブン)を購入している。

4. 通院や入院への対応について

今年度は男性4名女性4名の方が身体的な機能低下や医療的治療が必要で入院となった。

50代男性1名は4月下旬に腹部の張りと発熱で病院を受診し、巨大結腸症と診断された。5月15日に町外の病院に入院し、同月28日腎不全で逝去している。

80代女性1名は5月上旬に嘔吐の症状があり、腸内の便を排出する必要があるということで入院となる。入院後、嚥下機能の低下から6月に胃瘻造設を行った。8月、ご家族の希望で地元の病院へ転院されている。

80代男性1名は7月上旬、転倒による打撲の診断後、低血圧の状態が続き経過観察の為、入院し、翌日退院となっている。

50代女性1名は7月下旬、血中酸素飽和濃度の低下があり病院を受診する。両肺下葉肺炎と診断され、8月上旬退院している。

60代男性1名は9月上旬、不眠が続き精神的に不安定な状況となり、かかりつけとなっている町外の病院に入院し、11月中旬に退院している。

70代男性1名は10月下旬、右鼠径ヘルニアの為、町外の病院に入院し11月上旬に退院している。

80代女性1名は11月上旬にトイレ内で転倒し、動かせる状態ではなかった為、町外の病院へ救急搬送している。右大腿骨転子下骨折と診断を受け、その後手術を行い12月上旬に退院し、学園での生活を継続している。

50代女性1名は12月下旬にコロナ陽性となり、血中酸素飽和濃度の低下が続いた為、1月上旬に入院となっている。入院後、酸素投与治療を継続し1月下旬に退院している。

今後も通院や入院に至るケースについて、学園とご家族とで連携を図りながら慎重に進めていく。

5. 新型コロナウイルス感染症への対応について

検温回数は1日1回とし毎日の体調管理は継続しながら、熱発等の症状がある場合は、状況に応じて抗原検査キットの使用や通院を行っている。11月に新型コロナウイルス(8回目)とインフルエンザの同時接種を行っている。

12月から1月にかけて利用者1名が罹患しており、他の利用者の方に感染が広がることなく収束している。

あけぼの学園では、今回の集団感染の発生を踏まえ、衛生用品の確保、マニュアル等の整備、職員による防護服着用の実践研修を実施し、感染拡大防止に対応できる体制づくりを行った。職員についてはマスク着用を徹底した中での支援とし、健康管理を継続している。更に職員本人や同居家族が罹患した場合や有症状時の対応策を職員全体で共有し、感染予防に努めた。今後も感染症対策に努めた支援を行う。

6. リハビリ支援について

医師の指示の下、リハビリが必要であると診断を受けた利用者の方を対象に、作業療法士が中心となりリハビリを実践している。また、必要に応じてリハビリ外来を受診してリハビリ療法を受けている。

医師の指示の下、個々に合わせたプログラムを作業療法士が組み立て、支援ワーカーや看護師が連携して機能訓練を行った。今後も利用者個々の身体機能や生活状況を把握しながら専門的な支援を行う。

7.行事の実施について

今年度はウイングベイ小樽や余市イオンでのショッピングに分かれ日帰り旅行を実施し、一泊旅行は札幌市内でショッピングを楽しんでいる。その他、昨年同様に利用者の方が園内で楽しめる行事として、縁日祭を行った。

身体機能の低下もあり外出が難しくなっているが、今後も学園内で楽しむことの出来る行事を職員が企画し、利用者の皆さんに参加していただく。

8. BCP 計画(業務継続計画)について

地震等の自然災害や感染症のクラスターが発生した場合も、利用者の方に対して必要なサービスを継続的に提供できるよう BCP 計画を策定している。また、職員に計画内容を周知し、有事を想定した訓練を2月に実施している。

9.学校との連携と将来的な人材確保について

経専北海道保育専門学校の実習生3名の受け入れを行っている。

今年度は6月下旬に3ヶ所の専門学校や大学を回り、各学校の就職担当者へ採用に関わる情報提供を行うと共に、10月上旬には後志知的障がい福祉協会「合同就職説明会」に参加し、星槎道都大学で就職説明会を実施している。その結果、2名の学生が学園で実習を行っている。

今後も積極的に実習生を受け入れながら、地域との交流やPR活動を行い、将来的な人材確保に努めていく。

新型コロナウイルスが5類になったことから、小学校への出張授業も再開しており、12月に岩内東小学校、岩内西小学校を訪問し「岩内あけぼの学園と障がいについて」の出張授業を行っている。

10. 広域避難訓練の実施について

原子力災害における原子力防災訓練を10月31日に実施した。今回は通信訓練と倶知安町への避難訓練(学園職員2名)を行った。次年度も引き続き訓練を行い、有事の際に備えることとする。

11. 地域移行に向けた取り組み(地域移行確認)、グループホームとの連携について

今年度4月以降、えみしあ棟を GH 事業に切り替えている。利用者の方に地域移行の確認を行いながら、個別支援計画に反映し、4月から8名、11月から2名の利用者が GH(えみしあ、ヴィラコスモス)の利用を開始している。

生活拠点であるグループホームと情報を共有し出来る限りのバックアップを行った。今後もグループホームと連携を図りながら、利用者の方が落ち着いて生活することができるよう支援する。

12. 在宅(通所)利用者の支援について

今年度は地域支援センター(ぼのっと)を通所利用者の生活介護サービス提供場所としており、散歩やレクリエーション活動を提供した他、おやつ作り等を行った。

また、サンライズの生活介護利用者の方と合同活動を定期的実施し、交流を深めながら楽しく参加することが出来た。

13. 記録管理システムについて

記録管理システムを活用し、利用者の方の日常の生活状況をきめ細かく把握し記録することを徹底し、そのデータを健康管理や個別ケース等の支援に活用した。

また、蓄積されたデータを活用しモニタリングやアセスメント(評価)を行い、利用者の方の個別支援計画(ケアプラン)を策定した。

14. 障がい者虐待防止について

障害者虐待防止法を順守し、施設内における虐待防止委員会を毎月開催した。また、虐待防止に関わる施設内研修、オンライン研修への参加を行った。更に、職員は支援項目を確認するチェックシートの実施や権利擁護研修への参加、利用者の方については利用者自治会(はばたけ会)を通して虐待についての説明を行った。

15. 利用料収入と支援スタッフの確保について

国や利用者から支払われる一般的な支援費のほか、重度障がい者支援加算や人員配置体制加算、夜勤職員配置体制加算などを活用し、施設の収入財源を確保したうえで、国が定める一定の配置基準以上(今年度実績は利用者1.5名に対して支援スタッフ1名以上)の支援スタッフにより、利用者に対する日々の支援サービスを提供することが出来た。

夜間はあけぼの学園に職員3名を配置し、夜間専門職員と日中支援職員とで協力して支援にあたった。職員の採用について、有料広告会社や人材派遣会社等を通して、職員4名を採用した。

VIII. 食事提供業務の状況

1. 新型コロナウイルス感染症に配慮した食事提供

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことから、男女利用者の時間差での食事対応を緩和し、職員も利用者の方と一緒に食事を摂っている。

2. 選択食、希望食の実施

複数の料理からその場で好きな方を選択する献立、メニューブックを参考にして自分の食べたい料理を自由にリクエストし、それを献立に反映させた。更に、毎月実施するはばたけ会(利用者自治会)の中で利用者の方からの要望を聞き、行事食等に反映させた。また、通所利用者の方を対象におやつ作りを行い、喫食を楽しんだ。

3. 行事食、野外での食事会の実施

感染症対策を行いながら、毎月のランチ会、開園記念日、新年会などの行事食のほか、野外での食事会(炭火でのバーベキュー)を行った。

4. 特別食、エネルギー制限食の提供

腎臓疾患、糖尿病の利用者の方への特別食の提供、咀嚼、嚥下機能が困難である利用者の方への数種類に分けた刻み食の提供など、利用者の方の健康状態、嚥下機能に合わせた食事の提供を行った。

また、個人の年齢、体型、運動量、代謝量などを考え、通常の1,800kcalの食事のほか、若年層男女の2,000kcal、さらに1,600kcal、1,460kcal、1,200kcalの食事提供区分を設定し、利用者の方の健康に配慮した。

IX. 健康管理の実施状況

1. 日常生活における予防及び衛生

①生活習慣、感染症対策として、うがい、手洗い及び手指消毒、外出時はマスク着用を行った。

また、感染症対策から洗面所や出入り口にはアルコール消毒液を常設し、手洗いはペーパータオルやエアージェットを使用し、手指の清潔を保った。

②入浴時は全身の怪我や皮膚の状態を観察し異常があれば看護師へ報告し迅速に対応するよう努め

た。

2. 住環境の清潔と感染性疾病の予防

- ①感染症予防対策として、トイレや全館の消毒を実施した。
- ②ハセツパー水(除菌・消臭効果のある微酸性次亜塩素酸水)に対応した噴霧器を男女各棟のDルームに設置することで感染症の予防に努め、併せて加湿器も設置し温度及び湿度の調整に心掛けた。
- ③アルコール消毒液を各棟、玄関に設置し手指消毒に努めた。
- ④正面玄関に検温器を設置した。

3. 日常の健康管理

- ①検温を1日1回毎朝測定している。異常のあるときは通院を行い、軽易の症状であれば常備薬で対応した。また、新型コロナウイルス感染症の対応で、37.0℃以上の発熱等の症状があった際は、対応マニュアルに沿って迅速に対応することとし、病院へ受診、PCR検査を実施した。更に、発熱はなくても、風邪症状がある場合や感染者との接触疑いがある場合、抗原検査キットを積極的に活用した。また、状況については、看護記録に記載するとともに記録システム(ケアカルテ)に詳細な記録をとった。
- ②全利用者さんを対象に月2回体重測定を行った。また、体重の推移を細かくチェックする必要がある利用者の方については、毎週体重測定を行った。
- ③高齢の方や高血圧、呼吸器疾患、循環器症状のある方については、毎日血圧測定と血中酸素飽和濃度を測定し、その他の方に対しては、月2回血圧測定を実施した。数値が安定しない利用者の方に対しては通院を行い、状況や様子については健康管理委員会や各ケース会議で協議した。また、肥満防止、機能維持のために、食事量の検討、散歩、リハビリや体操などを行った。
- ④嚥下困難な利用者の方に対して「健口体操」を継続して行った。更に嚥下機能の低下が顕著となった利用者の方については、看護師、栄養士、作業療法士、支援ワーカーが観察、評価を行うことで、食事形態や支援内容の見直しを図り、医療機関への受診も行った。
- ⑤男女各棟を巡回し、利用者の方の健康状態をチェックした。
- ⑥新型コロナウイルス、インフルエンザの予防接種を行った。
- ⑦新型コロナウイルスの継続的な感染症対策として、支援ワーカーへ感染症対策における防護服着用の実演を新規採用職員に対して行った。
感染状況によっては、職員や利用者に注意喚起を促すと共に衛生用品や抗原検査キット等の備蓄管理を行った。

4. 往診状況について

昨年度まで、北内科クリニックと千葉外科医院に往診対応を行っていただいていた。今年度については、岩内協会病院外科についても対応が可能であるとの話を受け、6月から男女に分け月2回の頻度で往診していただいた。

5. 健康診断の実施と各種検診の受診

- ①施設で実施する年2回の健康診断は実施しており、身元引受人の了解を頂き、血液検査による癌検診(血液マーカー検査)、便採取による大腸がん検診を実施した。
- ②町内の歯科医院で治療が可能な利用者の方については町内で治療を行っており、行動特性上、町内の歯科医院での治療が難しい方については、北大病院の歯科を受診している。

6. 感染症罹患患者への対応について

インフルエンザについては12月に2名の男性利用者が罹患している。

X. 苦情解決について

苦情解決第三者委員会を年2回(8月6日、12月19日)に実施している。身元引受人も含めた苦情3件、意見・要望4件、計7件であった。12月はクリスマス会の前に法人苦情解決委員会を開催し、苦情、意見、要望について報告させて頂き、クリスマス会にもご参加頂いた。

また、毎月行う利用者自治会の会議等の中で、利用者の方からの要望が何点か聞かれたが、軽微な要望であった為、これについてはその都度解決した。

XI. 日中活動支援の状況

日中活動区分	生活介護(入所)	生活介護(通所)	生活介護(合計)
人数	40名	17名	57名

1. 日中活動グループの状況について(令和7年3月31日現在) ※○印は活動グループ運営責任者

活動グループ名		令和5年度日中活動編成			在籍数	運営責任者
		利用者名				
生活介護	生活介護 I	T・Kさん	K・Yさん	W・Aさん	33名	○M・T O・K K・M U・K K・S
		T・Kさん	K・Kさん	O・Rさん		
		S・Kさん	N・Rさん	H・Eさん		
		T・Tさん	Y・Mさん	N・Kさん		
		K・Hさん	T・Yさん	S・Sさん		
		S・Kさん	K・Kさん	Y・Hさん		
		M・Sさん	T・Kさん	I・Rさん		
		Y・Tさん	S・Yさん	K・Sさん		
		M・Mさん	N・Hさん	W・Hさん		
		W・Tさん	M・Tさん	I・Hさん		
		T・Mさん	I・Mさん	D・Hさん		
生活介護 II (個別支援)	T・Tさん	I・Gさん	K・Aさん	9名	○T・D S・A	
	I・Hさん	O・Sさん	H・Hさん			
	A・Sさん	K・Kさん	S・Mさん			
生活介護 III (ぼのっと)	I・Kさん	K・Tさん	N・Yさん	15名	○S・R N・K	
	U・Kさん	H・Yさん	N・Kさん			
	M・Mさん	M・Hさん	K・Kさん			
	S・Hさん	A・Tさん	A・Tさん			
	K・Yさん	E・Hさん	S・K			

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

2. 各グループの活動状況について

生活介護Ⅰグループ

○目標（重点目標）

1人ひとりが楽しみをもって参加出来るよう、活動内容を設定しその方の意思決定を尊重しつつ必要な機能維持やストレスの軽減を図り、落ち着いた生活を送る事が出来るよう支援する。

○どの様な取り組みを行うか

- ①心身の機能に併せた好む活動（個別課題、軽運動、機能維持に向けたリハビリテーション等）を提供する。
- ②活動中は利用者の方の心身の健康状態などに留意した上で、活動内容を提供する。
- ③冬期間は園内歩行を中心に取り入れ、気分転換を図る。
- ④少人数でゆとりを持った入浴が出来るよう支援する。
- ⑤身体的、精神的特性により、1人での入浴が困難な方に対して、活動内で入浴支援を行い気持ちのリフレッシュを図る。

○取り組みに対する評価

- ①1人ひとりの得意分野を活かし、活動メニューを定めた上で実施内容を決めており、活動を拒否する方もおらず取り組むことが出来ていた。また、意欲的に参加してもらう為、個別課題の更新を行った。
- ②その日の精神状態や特性に応じて活動内容に配慮し、活動中の体調不良者は見られなかった。高齢の方や体力の低下が見られる利用者の方も複数いる為、今後もその日の状態に合わせてながら、活動に取り組む必要がある。
- ③作業療法士が1人ひとりの体力や利用者の方の特性に配慮しながら距離を決め、園内歩行を行っている。
- ④少人数での入浴を行うことで、身体的、精神的にもリフレッシュし落ち着いて入浴することが出来ている。
- ⑤身体的、精神的特性により1人での入浴が困難な方に対しては、安定的に入浴が行えるように支援した。

生活介護Ⅱ（個別支援）

○目標（重点目標）

TEACCHプログラムの理念を取り入れた支援を提供し、見通しの持てる活動を提供する。

○どの様な取り組みを行うか

- ①定期的に自立課題を更新、見直しを行い継続的に取り組めるように支援する。また、活動や休憩スペースの環境を応じて調整する。
- ②生活場面と連携を図り、その都度固執の変化に合わせた支援のアプローチを行う。
- ③レクリエーションを実施することで気分転換を図り、活動に対する意欲向上に繋げる。
- ④他施設、関係機関との事例検討や研修会に参加し、支援に反映させる。

○取り組みに対する評価

- ①取り組み状況に合わせて、自立課題の修正、見直しを行う事で継続的に取り組む事が出来ている。自立課題については、物品の買い出しを実施し活動時間外に修正や更新をする時間を定期的に設け、安定した取り組みが持続できるように配慮した。
- ②自立課題の取り組み方に固執する様子から、課題の内容や量を調整し活動を実施する対応を行った。また、自立課題に取り組むよりも固執（シールや課題の持ち帰り）が勝る状況が見られ、活動終了時の手順の追加と課題の内容を固執に繋がらないものに変更した。
- ③2月にレクリエーションを実施している。弁当をテイクアウトし、気分転換を図った。
- ④自閉症勉強会として初任者基礎研修を行った。他施設や学園から事例を出し、検討する機会を設

けている。

生活介護Ⅲ(ぼのっと)

○目標（重点目標）

- ①個々のニーズに寄り添い、毎日楽しく通所できるように活動を提供する。
- ②身体を動かす活動やドライブ、調理実習を取り入れリフレッシュを図りながら、楽しく活動へ参加できるように努める。

○どのような取組みを行うか

- ①個々の能力に応じた活動（生産活動、創作活動、自立課題等）や余暇を提供し、楽しく通所を継続できるように努める。
- ②軽運動やレクリエーション等、身体を動かす機会を取り入れる。また、ドライブや調理実習を設定し、リフレッシュを図りながら楽しい活動を提供する。

○取組みに対する評価

- ①個々の能力に応じた活動（受託箱折り作業、創作活動、自立課題等）提供した。箱折り作業については、個々に得意な部分を活かした役割（折り目を付ける、箱を組み立てる、確認する、完成品を運ぶ等）を設け、意欲的に活動できるように配慮した。創作活動については毎月活動スペースに掲示するカレンダー作りや飾り付け、缶バッチ作り等を行った。作品（カレンダーや活動スペース内の飾り等）は目に入る場所に掲示することで作品作りのモチベーションが上がるように配慮した。自立課題については個々の得意な物や特性に合わせて内容や量を調整しながら提供した。余暇についても好むもの（テレビや映画鑑賞、塗り絵、パズル、編み物等）を提供し、楽しく通所を継続できるように支援した。
- ②天候に合わせてドライブやレクリエーションを提供した。ドライブについては意欲的に参加する利用者の方が多かった。レクリエーションについてはボーリング、スロットボール、ボッチャ等を提供しており、個々の得点表の他にもぼのっとに表を掲示することで、モチベーションがあがるように支援した。11月から毎週月曜日に調理実習を実施しており、その日に食べたいおやつを決め買い物を行い、午後から作って喫食した。調理実習は個々の得意な事を活かし、楽しみながら全員が携わることができるように配慮し、表情良く参加する姿が窺えた。また、職員が駄菓子屋さんとしてお店を開き、買い物練習ができる機会も取り入れており、商品を選択して自身で支払いをする楽しみに繋げられるように支援した。買い物後は、購入した駄菓子を喫食しており、楽しそうな様子が窺えた。